



畜産総合センターようじん通信

平成 30 年 7 月

OH29 年度産肉能力検定成績について

当所では、維持集団の能力が一定レベルに維持されているか確認するため、能力検定を実施しています。

昨年度実施した結果について、以下のとおりお知らせします。

表 H29検定成績

	L	W	D
日増体重(g/日)	966	971	1,212
飼料要求率	2.39	2.67	2.87

※いずれも去勢していない雄、
約 30～105 kgの期間

いずれの品種においても、完成当時の能力を概ね維持できていると考えられました。

今後も、能力検定及び体型審査により、譲渡個体の遺伝的能力を維持できる血縁管理と、その能力を最大限に発揮できるような飼養管理を行っていきたいと思います。



写真：検定豚舎豚房

(単飼で育成雄を飼養。検定を行う場合は
個体ごとに飼料給餌量を記録する)

◇在庫頭数について

W♀

生まれ月	在庫(頭)
1 1月	5
1 2月	7
1 月	2 3
2 月	2 2

D♂

生まれ月	精液検査 済み(頭)	精液検査 未実施(頭)
9 月	4	6
1 0月	1	3
1 1月	1	1
1 2月	7	0
1 月	0	1 4
2 月	0	1 3

7月1日時点の在庫頭数は上記のとおりです。

L♀、L♂、W♂も多頭数在庫を準備しております。現在、譲渡待ちはなく、希望順に譲渡しておりますので、早めにご連絡いただければ幸いです。

○暑熱対策について

6月後半から気温が30℃を超える日もあり、暑さが厳しくなってきました。毎年のことながら、皆様におかれましても、今年も暑熱が繁殖及び育成成績に影響を与えることを予感しているのではないのでしょうか。

既に試行錯誤され、ご存知のことが多いかと思いますが、参考までに暑熱による生産性低下に対する対策の例を以下に記します。

当所においても、十分に飲水できているか（ピッカーから出る水の量及び餌槽にたまった飼料の状態の確認、豚の行動観察等）、飼料の腐敗はないか（残飼の除去）等、夏季は特に注意して確認するようにしています。

皆様の農場における「年間を通じた出荷量と品質の維持」を念頭に、円滑な種豚更新を行えるよう、生産量の維持と要望に応えられる譲渡に努めていきたいと思っております。

分類	対策例
豚舎管理	<ul style="list-style-type: none">・換気調整、扇風機等による母豚への送風・ドリップクーリング（ペットボトル等簡易な道具で実施可能）・各種暑熱対策設備の設置 例：屋根への白色塗料、スプリンクラー 送風ダクト、細霧装置、クーリングパッド・飲水設備の見直し（豚が飲みやすい位置に設置しているか）
飼養管理	<ul style="list-style-type: none">・飼料内容の調整 （暑熱により飼料摂取量が低下しても必要な栄養価を満たす）・給餌頻度及び時間の調整
出荷調整	<ul style="list-style-type: none">・種付け頭数の増加（それに合わせた更新時期の調整）・出荷時期の調整

（連絡先）

◇畜産総合センター

： 0564-21-0201